

自由科目の科目概要 -リメディアル、司書資格に係る科目、準デジタル・アーキビスト資格科目、キャリア支援-

科目区分	科目名	科目概要
リメディアル	社会科学基礎（言語・国語）	担当者の高校国語教諭並びに指導主事としての経験を生かし、国語の基礎力の評価と定着につながる学修支援を行う。国語の諸分野・領域のうち、特に「書くこと」「読むこと」「話すこと」に資する課題を重視する。取り組むべき課題について自覚をもちながら、積極的・継続的に学修が進められるよう、題材・テキスト、授業外の課題を工夫する。
	社会科学基礎（社会）	担当者の高校社会科教諭としての授業実践の経験を活かして、地理・歴史・公民などの社会科学の基礎学力を定着させるための学修支援を行う。毎回、アクティブラーニング(発表と討論)を取り入れ、主体的に学ぶ方法を身に付けるようにする。新聞を読む力を養い、公民としての判断力を鍛える。
	自然科学基礎（数学）	担当者の山形県教育センターにおける算数・数学の指導主事経験を活かしながら、高校から大学での学修へ円滑に移行できるよう、基礎学力の定着のための学修支援を行っていく。小学校から高校1年程度までの算数・数学を中心として、講義・演習を行う。それによって、既習事項の再確認を行い、今後の大学における学修のための基礎固めを行うとともに就職試験等に役立つように、その種の問題等も演習の中に入れて講義を行っていく。授業では演習問題の解答の発表や討論の場を設ける。
	自然科学基礎（理科）	担当者の高校教諭としての経験から、多くの学生が興味を示し不思議と思えるテーマに焦点を当て、日常的に体験する具体的な科学的現象を提示し解説していく。また、自然科学の基本的な原理を通して、それが社会とどう関わり進歩発展してきたかに気づかせ、自然科学の面白さや奥深さに触れ科学への興味関心を醸成させる。さらに、教諭時代にも取り上げて授業が深化した経験から、メディアに取り上げられる科学情報を正しく読み解く力を養うため、グループワークで学生相互の発表や意見交換をおこなう。
	国際言語基礎（英語）	担当者の高校教諭としての指導経験を活かし、学生が英語を読む際に抱えると推測される様々な課題解決に結びつく授業実践に心がける。英語の四技能の中の「読む」力の育成・向上に重点を置いた直読直解指導をする。読解に不可欠な基礎的・基本的事項については、その復習及び定着を図る。学修に意欲的・積極的に臨む意欲につながるよう、授業内容・方法及び課題に工夫を加える。授業では可能な限り学生による発表、討論の場を設ける。
司書資格に係る科目	図書館サービス概論	図書館サービスの意義・理念と構造を理解する。図書館での各種サービスの種類・意義・方法・留意点や利用者との交流における基礎知識を学ぶことにより、司書として図書館サービス業務に従事できる基本的な能力を修得する。また、今後の図書館サービスのあり方について自らの考えをもつことも目標とする。図書館サービスの意義・理念と構造の理解を図り、図書館サービスに関わる基本事項（資料提供サービス、情報提供サービス、図書館協力、利用者対象別サービス、著作権の基礎知識、利用者との交流等）について解説する。
	情報サービス論	図書館における情報サービスの社会的意義とその実際を知る。情報サービスの基本となるレファレンスサービス・情報検索サービスの理論と方法、各種情報源の基礎知識を学び、情報サービス業務に携わるための基本能力を修得する。また、発信型情報サービス等の新しいサービス形態の在り方について理解する。現代社会における図書館での情報サービスの意義・役割を明らかにし、レファレンスサービス・情報検索サービス等のサービスの種類や方法、代表的な各種情報源（参考図書・データベース等）の特質・利用法を解説する。
	児童サービス論	児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象とする図書館の児童サービスの基本について学ぶ。読書の意義・役割、児童資料の種類と特性、児童コレクションの形成、児童サービスの概要、方法・技術、年齢層別サービス、学校・家庭・地域との協力等について解説する。
	情報サービス演習A	情報サービスの実施に関わる全プロセスを対象とし、各業務に必要な知識・技術の基本について具体的に学ぶ。レファレンスサービスに必要な専門的技術のうち、参考図書の理解と利用法を中心とするマニュアル検索の基礎能力を培う。特にレファレンス業務におけるレファレンスインタビューと回答業務、参考図書を利用した調査活動を中心に演習を通して実践的能力を養成する。情報サービスに活用するレファレンスツールの作成技術の基本を修得する。また、発信型情報サービスに用いられる各資料（パスファインダー、文献リスト等）の作成演習も実施する。
	情報サービス演習B	授業内容は大きく情報検索と情報発信に分けられるが、主になるのは情報検索である。情報検索の方では、パスファインダーの作成を目標に、各種資料の検索方法を演習を通して学ぶ。情報発信では、Webサイトの作成・運用・管理の基礎を演習を通して学ぶ。
	図書館情報資源概論	図書館情報資源について、図書館業務に必要な基本的知識を修得する。図書館情報資源の選択・収集・保管等、収集業務を中心とする図書館コレクションの形成に関わる知識や方法について理解する。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通等の図書館業務に必要な知識等の基本を解説する。図書館情報資源の選択・収集・評価・受入・管理等の図書館コレクションの形成の理論と方法について概説する。
	情報資源組織論	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について学修する。組織化の意義・理論、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析と分類法・索引法、メタデータ、書誌データの活用方法等について概説し、主要規則について解説する。

情報資源組織演習 A	情報資源組織業務のうち、主に主題分析、分類作業、統制語彙の適用に関する実践的な能力の修得を目的とする。主題分析の手法を理解し、分類については『日本十進分類法 (NDC)』、統制語彙については『基本件名標目表 (BHS)』を用いた実際の分類及び件名作業を中心に必要な知識・技法を修得する。	
情報資源組織演習 B	情報資源組織業務のうち、主に書誌データの作成・管理・利用に関する実践的な能力の修得を目的とする。『日本目録規則 (NCR)』による実際の書誌データ作成を中心に必要な知識・技法を修得する。書誌ユーティリティ等を用いた集中化・共同化による書誌データの作成やネットワーク情報資源のメタデータ作成の基本を理解する。	
図書館基礎特論	図書館の理念、社会的役割・機能、課題についての理解を深め、図書館の現状を踏まえながらそのあり方について考察する。授業では「図書館の自由」に関する代表的な事例を紹介・解説する。受講生は、次の時間までにワークシートに自分の意見・考えを記入し提出する。授業内で前後半各1回、提出されたワークシートをもとにディスカッションを行い、図書館のあり方について多面的に考察していく。	
図書館サービス特論	図書館サービスの計画や実施に関わる「著作権」や「著作権問題」について理解を深め、日常の業務上直面する著作権問題に対応できる能力の基礎をつくる。特に電子メディアと著作権の関係についての知識の修得に重点をおく。図書館における対人関係の基本的理解を目的とし、図書館での直接サービスの基盤となる「コミュニケーション能力」の基礎を修得する。	
図書館情報資源特論	ネットワーク情報資源を中心とした各分野の専門的研究情報及び二次情報源について理解し、その利用技術を修得する。また、ネットワーク情報資源を活用し、自館作成情報資源としての書誌作成の基本的技術の修得を目指す。ネットワーク情報資源を中心とする二次情報源一般について体系的に把握することから始め、その利用技術を用いて、受講生各自のテーマ設定に基づく文献調査、書誌作成の方法を学び実践する。 (各自作成する書誌は、一定の作成期間をおいた後で提出してもらい、評価の対象とする)	
図書・図書館史	図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産、普及、流通等の歴史、並びに図書館の歴史的発展について解説する。印刷・出版流通の変遷から、各種の図書館情報資源の形態・生産・普及・流通の変遷をたどり、さらに西洋の図書館史と日本の図書館史について解説していく。	
準デジタル・アーキビスト資格科目	デジタル・アーキビスト概論	これからの社会に求められる「デジタル・アーキビスト」がどのような職種であり、その役割を遂行するためにどのような技能や知識を必要とするのかを理解する為、上級デジタルアーキビストとしてのデジタルアーカイブの経験を活かし、事例を紹介しながら、デジタル化社会に向けたデジタル・アーキビストのとしての基礎を学ぶ。
	地域文化とデジタル・アーカイブ	地域の残る伝統文化を後世に伝承していく手法として「デジタル・アーカイブ」の役割を理解し、デジタル・アーカイブを活用した新たな文化創造、地域におけるアーカイブ活動について学ぶ。上級デジタルアーキビストとしてのデジタルアーカイブの経験を活かし、事例を紹介しながら、地域の課題解決にデジタル・アーカイブがどのように役立つかを考え、デジタル・アーカイブの実践を行う。
キャリア支援	TOEIC対策	基本的文法事項を再確認しつつ、TOEIC形式（リスニング・リーディング編）の設問により英語らしい表現や実用的な表現を修得し、応用性の高い英語力の強化を目指す。具体的には、文法事項の確認よりも各課に登場する「使える表現」の定着を重視し、既修内容を反復練習するなどしてボキャブラリーの増強を図る。さらに、スピーキング・ライティングに不可欠な語彙力についても強化を図る。
	韓国語検定対策	基本的文法事項を再確認しながら、検定に出題される設問に正確に解答するために必要な語彙や文法力をつけることを目指す。具体的には、検定特有の問題形式に対しての適切な受験対策準備をするとともに、テキストに登場する「使える表現」の定着を目指し、既習内容を反復練習するなどしてボキャブラリーの増強を図る。なお、実践領域に配されている海外研修科目参加のための準備科目の一つに相当する。
	中国語検定対策	基本的文法事項を再確認しながら、検定に出題される設問に正確に解答するために必要な語彙や文法力をつけることを目指す。具体的には、検定特有の問題形式に対しての適切な受験対策準備をするとともに、テキストに登場する「使える表現」の定着を目指し、既習内容を反復練習するなどしてボキャブラリーの増強を図る。なお、実践領域に配されている海外研修科目参加のための準備科目の一つに相当する。